

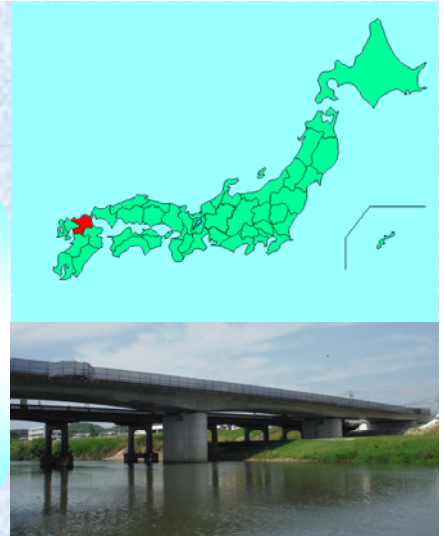


かんろくぼし 勘六橋

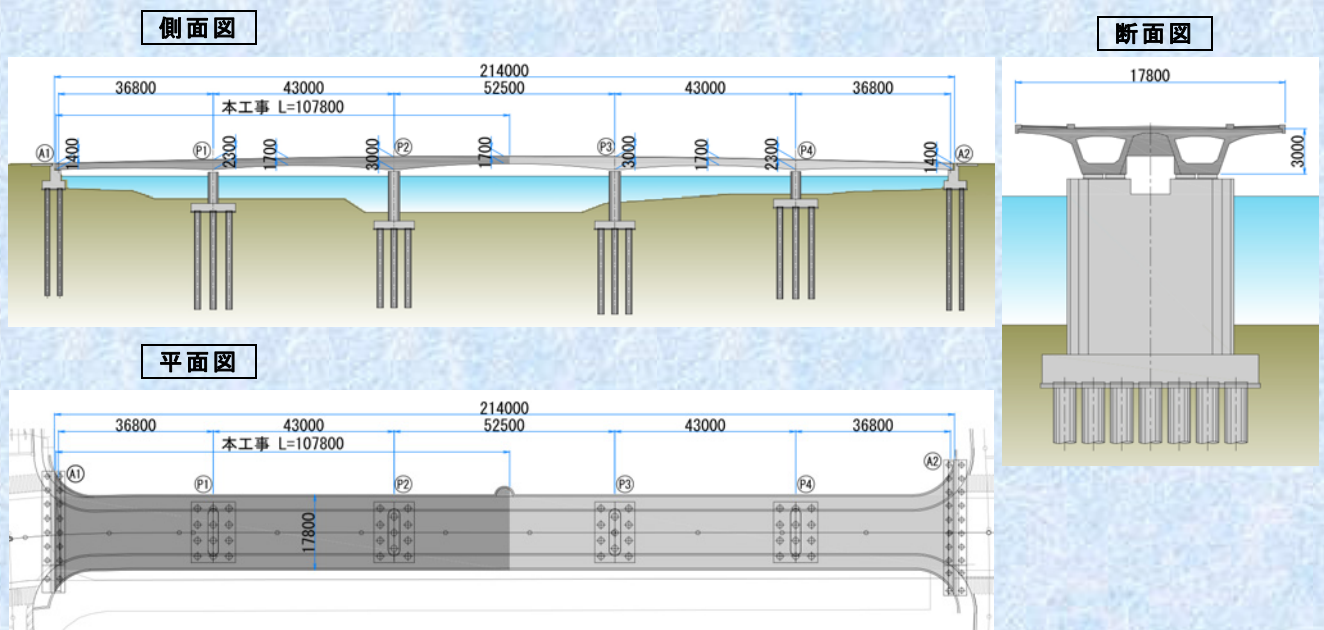
本工事は、1級河川遠賀川に架かる現勘六橋（昭和9年架橋）の老朽化に伴う架け替え工事です。上部工の構造形式は、P C 5径間連続箱桁橋であり、橋長241.0m、全幅員17.8m（標準部）の1室2主箱桁形式です。

施工は、1級河川遠賀川の非出水期（10月～翌5月）施工であり、施工方法は、低水路部のP2、P3に張出し架設工法を採用し、高水敷部のP1、P4は固定支保工架設工法で行っています。

橋梁全体を2工区に分けた分割発注となっており、当社はA1～P2・P3中央閉合部までの1工区を施工しました。



◆一般図



◆橋梁諸元

工 事 名：都市計画道路境口頓野線 勘六橋橋梁上部工工事（1工区）

発 注 者：福岡県

設 計 者：サンコーコンサルタント㈱

位 置：福岡県直方市新町1丁目

路 線 名：都市計画道路境口頓野線

道路規格：第3種第2級

形 式：P C 5径間連続2主桁箱桁橋

荷 重：B活荷重

橋 長：214.0m(36.8+43.0+52.5+43.0+36.8m)

（当社施工：1工区 L=107.8m）

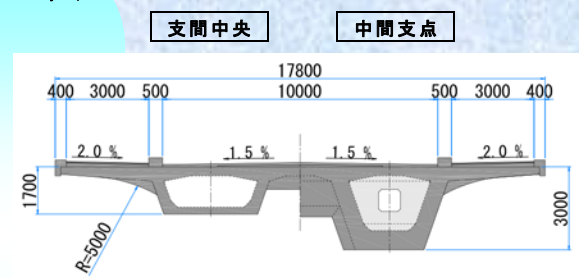
総 幅 員：17.8m(有効幅員 車道：10.0m 歩道：2@3.0m)

架設工法：張出し架設工法、固定支保工架設工法

P C 鋼材：主方向：SWPR7BL 12S12.7（フレシネー工法）

横締め：SWPR19L 1S28.6（CCL工法）

断面詳細図



◆構造・施工概要

1) 景観へ配慮された構造

箱桁断面の張出し床版は $R=5.0\text{m}$ の大きなサークルハンチ（張出し）を有する形状となっており、主桁をスレンダーに見せる工夫がなされています。特に側径間部の端支点部桁高は 1.4m （桁高・支間比 $1/31$ ）であり、桁高をより低くすることで張出し床版の曲線美を強調しています。さらに、排水等の橋梁添架物は、全て外面から見えない桁内へ配置されており、細部に対しても景観への配慮がなされています。

2) 大型4主構架設作業車による張出し施工

本橋は、1室2主箱桁形式であり、大型の4主構架設作業車を使用して張出し施工を行っています。4主構架設作業車施工では、各主構の反力が不均等になった場合に、中央部の床版部に引張応力が発生することが懸念されたため、上部大梁の中央部は、ピン構造を有する天秤形式とすることで、各主構のジャッキ反力を均一化しています。



柱頭部(P2)

全景



架設作業車

◆工程表

項 目	平成26年			平成27年												平成28年					
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
準 備 工																					
柱 頭 部																					
張 出 し 架 設 部																					
側 径 間 支 保 工 部																					
閉 合 部																					
片 付 け 工																					



三井住友建設

発 行：三井住友建設（株）土木本部 土木設計部
 連絡先：東京都中央区佃2丁目1番6号 TEL:03-4582-3063
 URL：http://www.smcon.co.jp